



ブロンスワフ・ピウスツキ没後百年記念

講演と映画と朗読の集い ～ポーランド、サハリン、北海道～

[第1部] 講演 13:30～15:00

井上紘一（北海道大学名誉教授）

ブロンスワフ・ピウスツキの生涯と仕事

佐々木史郎（国立民族学博物館名誉教授）

ピウスツキが収集したアイヌ衣文化

新井藤子（北海道大学大学院）

ピウスツキが日本に残したイメージ～明治から現在まで～

[第2部] 記録映画 15:15～16:15

ピウスツキ・ブロンスワフ～流刑囚、民族学者、英雄～

ヴァルデマル・チェホフスキ監督（2016、日本語字幕付き）

[第3部] 朗読 16:30～18:00

長屋のり子 / 盲いたチュフサンマの悲歌（自作詩）

白井順 / チュフサンマとピウスツキとトミの物語（花崎皋平作、未知谷、2018.5）より

酒谷茂靖 / 土橋芳美作品（ペンリウクとバフンケについて）

会場：北海道大学学術交流会館 1F 小講堂

日時：2018年7月29日（日）13:30～（開場13:00、入場無料）

主催：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、北海道ポーランド文化協会
ポーランド広報文化センター

後援：駐日ポーランド共和国大使館

連絡先：スラブ・ユーラシア研究センター（越野）gkoshino@slav.hokudai.ac.jp

北海道ポーランド文化協会（安藤）hokkaidopolandca@gmail.com, 080-4071-0956

（図）ブロンスワフ・ピウスツキ，Adomas Varnas 画 1912，ユゼフ・ピウスツキ博物館所蔵、画像提供 Witold Kowalski
この企画は、ポーランド独立回復100周年記念事業の一つとして、実施されるものです。



ポーランド広報文化センター
INSTYTUT POLSKI TOKIO



駐日ポーランド共和国大使館

wiepodlega

ポーランド
独立回復
100周年

ブロニスワフ・ピウスツキ(1866～1918)はリトワニア生まれの優れた人類学者です。樺太島に流謫され19年の歳月を過ごした極東ではアイヌ・ニヴフ・ウイльтаなど極東先住民研究に従事、この分野では草分けと評価されています。1980年代半ばには北海道大学がピウスツキの収録した録音蠟管の音声復元に成功し、アイヌ最古の肉声が復元されたことが話題になりました。

今年は彼の没後百年に当たり、ポーランドでは日本との文化交流事業の一環として、ピウスツキ没後とポーランド独立回復の百周年(2018)、そして来年は両国の国交樹立百周年(2019)を慶賀するさまざまな行事が計画されています。

日本の没後百周年記念イベントでは3名の専門家の講演と記録映画上映に加えて、ピウスツキの妻チュフサンマとその叔父バフンケをめぐる詩作3篇の朗読も企画しました。日本におけるピウスツキ研究がその裾野を着実に広げる現場にお立ち会いください。奮ってのご参加を呼びかけます。

プロフィール

[第1部] 講演

井上紘一(いのうえ・こういち)

北海道大学名誉教授、ブロニスワフ・ピウスツキのサハリン民族誌：二十世紀初め前後のエンチウ、ニヴフ、ウイльта、東北大学東北アジア研究センター、2018 ほか

佐々木史郎(ささき・しろう)

国立民族学博物館名誉教授、ポスト社会主義以後のスラヴ・ユーラシア世界：比較民族誌的研究、国立民族学博物館論集4、風響社、2016 ほか

新井藤子(あらい・ふじこ)

北海道大学大学院修士課程、ピウスツキと日本、北海道、先住民族、POLE 87、2016.1 ほか

[第3部] 朗読

長屋のり子(ながや・のりこ)

手芸誌主筆を経て詩人、随筆家、主著 小説「樋口芳男の手記」プレス東京出版、詩集「睡蓮」ぼえとりくす舎、「蝶の背に乗って」アニマアニマ協会ほか、小樽 春香山在住

白井順(しらい・じゅん)

小樽市の和楽器(箏や三味線など)専門店、二見屋邦楽器店主。視覚障害者の為の朗読本作成ボランティアで基礎を学ぶ。「淡々と、でも」という読み方はその時から。札幌 山猫座朗読会、FM おたる等に出演。

花崎皋平(はなざき・こうへい)

1931年生まれ、小樽在住、文筆業(哲学・社会思想・詩など)著作「生きる場の哲学」、「アイデンティティと共生の哲学」、「静かな大地～松浦武四郎とアイヌ民族」ほか、詩集「アイヌモシリの風に吹かれて」、「風のとおる道」、「チュフサンマとピウスツキとトミの物語」

酒谷茂靖(さかたに・しげやす)

「朗読」の表現宇宙の豊かさ深さに心魅かれます。肉声による作品世界の表出、時空を越える心の旅を願い、活動を続けております。

土橋芳美(とばし・よしみ)

詩人、痛みへのペンリウク：囚われのアイヌ人骨、草風館、2017(第51回北海道新聞文学賞(詩部門)佳作)ほか



(1) チュフサンマ, 北里闌 撮影, 1931 (2) バフンケ, 太秦供康 画, 1905, 北海道博物館所蔵 (3) ペンリウク, Adolf Fischer 画, 1897, 国際日本文化研究センター所蔵 (4) ブロニスワフ・ピウスツキ百年忌追悼行事, 白老・旧アイヌ民族博物館, 2018.5.17